

| |
|--|
| 1 学校教育目標 |
| 国際社会をたくましく生き抜くために、心豊かな人間性を育み、確かな学力を身に付け、自ら考え、判断し、表現や行動できる児童・生徒を育成する。 |

| |
|---|
| 2 学校経営ビジョン |
| (1) 美しい自然に恵まれた小さな学校の特性を積極的に生かし、保護者、地域と連携を密にして、小さい学校だからこそできる「きめ細かな教育」の更なる充実を図る。 (2) 新学習指導要領のねらいである習得する力、活用する力の育成を図るため、教育課程の創意工夫を図る。 (3) 小・中校間の相互の授業公開や中学校教員の小学校での授業及び小中一貫の行事や交流を通して、小中の連携を強化し、小中学校の全職員で全児童・生徒を育てる教育の推進を図る。 |

| | |
|--|---|
| 3 本年度の重点目標 | 4 前年度の成果と課題 |
| (1) 確かな学力の定着を目指す学習指導の充実 (2) 新学習指導要領のねらいを意識した教育課程の編成の工夫 (3) 小学校外国語活動の充実 (4) 小中連携と小中間交流の充実 (5) 児童・生徒指導の充実 (6) 道徳教育の充実 (7) 人権・同和教育の充実 (8) 特別支援教育の推進 (9) 食育の推進 (10) 家庭、地域との連携、協力の推進 | (1) 学校行事(体育大会・学習発表会・ふれあい道徳)を地域参観としたため、保護者以外の校区民の参加が増え、学校に対する関心度を高めることができた。 (2) 小中共に朝の時間に設定した「トライアップタイム(スピーチ活動・スキル学習)」により、コミュニケーション力等をつける体制ができた (3) 算数科では、個に応じた学習指導を計画的に実施したため学力が少しずつ向上してきた。反面、学習状況調査の結果から国語科の学力を高める指導が必要である。 (4) 基本的な生活・学習習慣を身につけさせるために家庭との連携を強化して |

| 5 総括表 | | | | | | |
|-------|------------|--------------------|---|--|---|---|
| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的評価項目) | 具体的目標 | 評価及びその理由 | 具体的方策 | 成果と課題 |
| 学校運営 | ○開かれた学校づくり | 家庭や地域との連携並びに協力 | 1: 授業参観等への保護者参加率を100%とする。 2: 学校行事(体育大会・学習発表会・ふれあい道徳等)を地域参観と明確化し、校区住民の参加率を50%とする。 | B 1: 保護者の参加率が到達できなかった。 2: 校区住民の参加率が到達できなかった。 | 1: 学校からの情報発信を積極的に行い、地域行事への生徒参加・協力を行う。 2: 学校だよりを全世帯に配布する。 | (1) 小さな学校ではあるが、小中併設校の特色を生かした実践が改善されながらできている。 (2) 「へき地」を「碧地」に (3) 学校便り・学級便り(学習計画含)により、児童の様子が伝達されていると思う。 (4) 滝野校保護者の学校行事に対する理解・協力及び支援は、有り難い。祝祭日に行う学校行事への参加率は90%を超えている。 |
| | ○小中連携 | 小中連携の充実 | 1: 学校行事や授業での小中の協力や交流を更に推進する。 2: 職員の連携達成度90%とする。 | B 1: 小中の協力や交流は十分できた。 2: 校務分掌等連携達成度が到達できなかった。 | 1: 各部並びに校務分掌担当者が小中職員間の意思疎通を円滑に行う。 2: 学校行事では、改革改善を念頭に安易に前例踏襲にならないようにする。 | (1) 小中力を合わせ、数多の「滝野ならではの」の行事の取り組みができた。 (2) 職員が少ないので校務分掌の重複が多く、大変な面もあるが、少しでも改善できるように校内研や校時表、校務分掌の見直し改善を図りたい。 |

| | | | | | | | |
|------|------------|-------------------|--|---|--|---|--|
| | ○職員の資質向上 | 教職員の学習指導力の向上 | 1:意欲を引き出し、習得する力、活用する力を育てる指導力を身につける。 2:児童が「分かる授業・できる授業・明日も学びたい授業」を目指す。 3:学校評価(児童の部)で達成度90%とする。 | A | 1:教職員が叡智を出し合い、学習意欲・習得力・活用力の向上に積極的に取り組んだ。 2:児童による評価項目の達成度が到達できた。 | 1:校内研究・研修を充実させ、年1回以上の授業公開と研究会を行う。 2:学習力向上につながる情報交換の場を積極的に設定する。 | (1)学力差が大きい学年もあるが、少人数を生かした指導を行うことができた。 (2)家庭学習の習慣化を図るために「個人カルテ」を一層活用していきたい。 (3)中学校職員による教科指導を積極的に導入し、学力向上を目指したい。 (4)教師自身の自己研究・修養を行うように校内研究を充実したい。 |
| 教育活動 | ●学力向上 | 児童一人ひとりの学力向上 | 1:学習状況調査等で県や市の平均以上の児童を増やす。 2:諸調査において昨年度より5%上昇とする。 3:「個人カルテ」「トライアップタイム」の実施と活用を確実に進行。 | B | 1:「個人カルテ」による現状把握はできたが、個別指導が不足した。 2:「トライアップタイム」の実施はできたが、効果的な活用ができなかった。 | 1:少人数学級を活かした指導法の積極的な取組を図るとともに「カルテ」を生かして家庭学習の習慣化を図る。 2:学力を支える基本的な生活習慣と学習習慣を着実に身につけさせる。 | (1)基礎基本の定着に取り組む上で、職員間の協力や情報交換が大いに役立った。 (2)個人カルテやトライアップタイムも定着してきたので今後、更にそれらを児童のために生かしていく工夫が大切だと思う。 |
| | ●心の教育 | 道徳教育の充実 | 1:年1回以上、全学級で道徳の授業を公開する。 2:機会ある毎に児童に対し、心を揺さぶる説話を。学級では、毎週1度。学校全体として月1度で達成とする。 3:児童に先人が創作した「童謡」を聞かせ、音楽を通して心の安定と童謡詩にある言葉を通して多様な心を養う。朝・給食時間・清掃時間に流して達成とする。 4:「心のノート」を使った指導をする。 | B | 1:「ふれあい道徳」は、12月20日に実施することができた。 2:教師による説話の取り組みや「童謡」を毎日聴かせることはできた。 3:「心のノート」を活用した授業が不十分であった。 | 1:道徳指導に関する情報の共有を心がける。 2:「ふれあい道徳」は、校区民にも案内状を出す。12月13日(日)とする。 ①親子ふれあい「昼食弁当づくり」 ②親子集団登校 ③公開授業(小学:1時間・中学:1時間)計2時間 | (1)12月20日に「ふれあい道徳」を行った。 ①親子ふれあい「弁当づくり」は好評で、価値ある取組であった。 (2)「心のノート」を積極的に用いた指導を行ったり、担任自身の体験をもとにした説話等をして児童の心を揺さぶりながら、次世代の日本を背負う日本人を育成していきたい。 |
| | ○外国語活動 | 外国語活動指導の充実 | 1:指導要領の方針にそった取組ができる。 2:「英語活動ノート」を活用した取組ができる。年間計画にそって取り組むことで達成とする。(5・6年) 3:担任とALTが連携を図った取組ができる。(全学年) | A | 1:指導要領の方針にそった取組ができた。 2:「英語活動ノート」を活用した取組ができた。 3:各担任とALTが連携をとり、積極的な外国語・英語活動ができた。 | 1:「外国語活動」の指導充実を図るために研修主任や高学年担任並びに教務主任が計画を立て取り組む。 2:先進校モデルとして積極的に取り組む。 | (1)平成22年2月5日に「外国語・英語活動」授業公開研究会を行った。市内外から約40名の教職員の参加があった。 (2)今回、公開授業研究会のために教職員が力を合わせて取り組むことができた。 |
| | ○人権・同和教育 | 人権・同和教育の推進 | 1:学校全体及び学級で計画的に取り組む。 2:人権・同和教育に係わる説話を児童に行う「やまびこ広場」を毎月1回設定する。毎月実施できて達成とする。 | A | 1:計画的に取り組んだ。 2:「やまびこ広場」は確実に実施できた。 3:児童の人権意識は高まっている。 | 1:学級の実態に応じた説話等を人権・同和教育の年間計画にそって行う。 2:「やまびこ広場」の年間計画を立てる。(人権・同和教育担当者と教務との連携) | (1)年間計画にそって指導を行ったため学級や学校全体で温かい心を育むことができています。 (2)「やまびこ広場」は、計画的に実践できた。各担当者は、児童の人権意識を育むような説論ができた。 |
| | ●◎健康・体力づくり | 食育等を通じた健康づくり | 1:朝食摂取を100%とする。(学校評価の活用) 2:栄養バランスを考えた食事を摂らせるように家庭と連携する。PTAの会議で話題にする。毎回話題にして達成とする。 | A | 1:児童の評価から朝食の摂取は確実にできている。 2:PTAの会議等、機会ある毎に話題にした。 | 1:給食指導を充実し、食や栄養に関する講話も定期的に行う。 2:本校担当栄養教諭を活用する。 | (1)本校は、ランチルームで全学年が合同で食事を行う。食育担当者・養護教諭・担任が連携して食育指導ができた。 (2)栄養教諭による栄養に係わる指導があり、児童も理解してきている。 |
| | ○特別支援教育 | 必要な生徒への特別支援の体制づくり | 1:会議で児童に応じた支援ができるような協議を設定する。 2:全職員で共通理解し、取り組む。 3:「個別指導計画」「個別支援計画」を作成する。 | B | 1:支援を要する児童について全職員への情報発信や支援要請を積極的に行った。 2:「指導計画・支援計画」の作成が不十分であった。 | 1:校内委員会の設置とともに毎月1回は、小中合同で情報交換を行う。 2:外部機関との連携を図る。 | (1)毎月1回小中合同の情報交換会を確実に実施した。そのため小中職員の共通理解ができた。 (2)SC・SSWとの連携をとりながら支援体制が強固になってきた。 (3)個別指導計画と支援計画に関する研修が必要である。 (2)書類の保管方法について考慮したい。 |

| | | | | | | | |
|------|-----------|---------------|---|---|---|---|---|
| 特別課題 | ◎家庭教育力の向上 | 「伊万里っ子しぐさ」の徹底 | 1:「伊万里っ子しぐさ」のカレンダーを十分に活用し、児童・保護者だけでなく、教師自身の言動を向上させる。 2: 相手を気遣う言動ができた児童をほめたり、児童集会で「しぐさ」を唱えさせる。 3: 学校評価に本項に関する事項を設け、達成度をみる。80%の達成とする。 | B | 1:カレンダーの活用が不十分であった。 2: 保護者による評価項目に「しぐさ」の活用等を設けた。活用していない家庭があり、80%に到達できなかった。 | 1: 小中合同集会等、機会あるごとに児童に「伊万里っ子しぐさ」を取り上げ、担当者が説諭する。 2: 「伊万里っ子しぐさ」カレンダーの言葉を各学級で唱えさせる。 | (1)毎朝、当日の「しぐさメッセージ」内容を校内放送で紹介した。各学級にある「カレンダー」を一層活用したい。 (2)家庭における活用を高めるためにこれからも家庭へ発信していきたい。 |
| | ◎情報モラルの徹底 | 実態に応じた情報モラル教育 | 1: 情報モラルについて児童の発達段階に対応した指導をする。その際は、国や県が提供した資料を十分活用する。 2: 情報モラルに関する指導を毎学期1回実施して達成とする。 3: 保護者への啓蒙 | B | 1: 発達段階に対応した指導はできた。 2: 保護者への啓蒙が不足した。 | 1: 携帯電話等によるトラブルに関する情報や知識を教師や保護者が知っておく。 2: 携帯電話の必要性について保護者会で話題とする。 | (1)児童生徒のほぼ全員が携帯やパソコンは持っており親のものを借りて、時々メールをしたり、ゲームをしたり状態なので、やはり、危機感を持ってもらう対象は、保護者であると思われる。情報モラルについてPTAの講演会等で取り上げたい。 |
| | ◎不登校の未然防止 | 教育相談の充実 | 1: 「滝野小は楽しい。明日も学校に行きたい。」と思う児童を育てるために教師と保護者が常に連絡を取り合う。 2: SC・保護者・教育相談担当者等と連携し、校内研修や他機関が実施する研修会に積極的に参加する。参加率が80%で達成とする。 | A | 1: 「滝野小は楽しい。明日も行きたい。」について保護者や児童の評価は良好であった。 2: SC・SA・教育相談担当者との連携が善くできた。 | 1: 教育相談体制を構築する。 2: 毎月1回は「気にかけておきたい児童」について協議する。 3: 教育相談担当者による長期休業中の研修を開催する。 4: 学校評価(児童の部)を行い、一層充実した学校生活ができるように全職員で取り組む。 | (1)月に1回小中合同職員朝会を設定し、協議をすることができた。 (2)長期休業中に研修を行うことができた。 (3)SCだけでなく、SSWとの連携もできた。 (4)今後、益々相談体制を強固にしたい。 (5)教育相談に関する校務分掌の改善をする必要がある。 |

| | |
|--------|--|
| 6 総合評価 | <p>(1) 職員による評価を総合すると概ね良好である。</p> <p>①本校の特色は「真の小中連携ができる」ことにある。連携・協力体制を一層充実できるように先進校を参考にした教育課程の編成を行いたい。</p> <p>(2) 保護者による評価を総合すると概ね良好である。</p> <p>①今年度も保護者に支えられて学校行事(茶園活動・体育大会・学習発表会等)が実施できた。 ②朝食の摂取や「ノーテレビ・ノーゲーム」更に、伊万里市独自の「家読」「伊万里っ子しぐさ」の取組が連携できた。 ③特別支援教育に関する情報の提供が不十分であった。</p> <p>(3) 児童による評価を総合すると良好である。</p> <p>①評価項目の「先生・勉強・心」等、教師と児童との関わりは良好である。継続して行っているアメリカンスクールとの交流を続けて欲しいと願っている。</p> <p>(4)今年度の「評価項目」の再検討が必要である。</p> |
|--------|--|

| | |
|-----------|---|
| 7 来年度の改善策 | <p>(1) 小中連携は、今年より一層充実していきたい。</p> <p>①9ヵ年体制による教育課程の編成(生活の基礎基本・学力向上・学校行事) ②中学校教師による学習指導の実施</p> <p>(2) 保護者に信頼される学校づくり</p> <p>①保護者と連動した学校行事の実施(行事の精選と内容の充実へ) ②「ノーテレビ・ノーゲーム」の見直し(視点:テレビ視聴時間) ③「伊万里っ子しぐさ」の本格的な取組(PTA活動との連携) ④学校便り・学級便りを生かした情報の提供</p> <p>(3) “明日も滝野小学校に行きたい児童の育成するため”の取組</p> <p>①正に「Under Stand(児童の目線)の心」を教師が持ち、児童を指導したり、諭したりしていく。そのためにも教師自身の「教師としての資質の向上」だけにとどまらず、「人間としての自己修養」を行う。</p> <p>(4) 評価項目の再検討</p> <p>①小中(保護者・職員・児童生徒)の項目の殆どを共通にする。</p> |
|-----------|---|

●は県共通評価項目、◎は市共通項目、○は独自評価項目

